

整理番号	H-A009-J-13
------	-------------

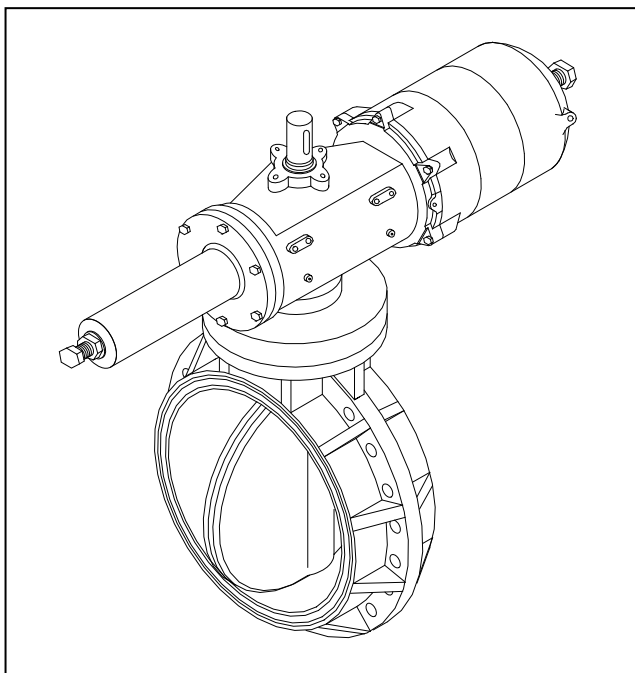
バタフライバルブ

エア式TW型

75 型	呼び径：450～600mm 本体材質：PP, PVDF
75D 型	

(自動バルブ)

取扱説明書





目次	(ページ)
1. 弊社製品の保証内容について	1
2. 取扱い使用上の注意	2
3. 運搬・開梱・保管の注意	3
4. 各部品の名称	4
5. 使用温度と圧力の関係	5
6. アクチュエータ仕様	6
7. 電磁弁使用	6
8. リミットスイッチ仕様	7
9. フィルタ付減圧弁仕様	7
10. スピードコントローラ仕様	7
11. 取付方法	8
12. サポート設置方法	10
13. エア配管方法	11
14. リミットスイッチ結線方法	13
15. 電磁弁結線方法	14
16. 試運転方法	15
手動操作方法	15
エアによる操作方法	16
開閉スピード調整方法	17
17. 部品交換のための分解方法	18
18. ストップー調整方法	20
19. 点検項目	21
20. 不具合の原因と処置方法	21
21. 残材・廃材の処理方法	22



本取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載しています。尚、お読みになられた後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に必ず保管ください。

【表示マークについて】

<警告・注意表示>

 警告	取扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
 注意	取扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

<禁止・強制表示>

	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

1. 弊社製品の保証内容について

- ・弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願い致します。
 - ・弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体または財産を侵害する恐れのある設備等へご使用される場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書等の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承願います。
 - ・弊社製品の選定、施工・据付、操作、メンテナンス等の注意事項は技術資料、取扱説明書等に記載してありますので、最寄りの販売店・弊社営業所へお問い合わせください。
 - ・弊社製品の保証期間は納入後1年間とし、保証期間中に不具合が生じ、弊社に通知された場合は直ちに原因究明を行い、弊社製品に欠陥が発見された場合には弊社の責任でその製品を修理・交換致します。
 - ・保証期間経過後の修理・交換は有償となります。
 - ・ただし、次に該当する場合は保証の対象外と致します。
 - (1)ご使用条件が弊社の定義する保証範囲を超えている場合。
 - (2)施工・据付、取扱い、メンテナンス等において、弊社の定義する注意事項等*が守られていない場合。
 - (3)不具合の原因が弊社製品以外の場合。
 - (4)弊社以外による製品の改造・二次加工による場合。
 - (5)部品をその製品の本来の使い方以外にご使用された場合。
 - (6)天災・災害等の弊社製品以外の原因による場合。
- ※ 尚、弊社製品の不具合により誘発される損害については、保証の対象外と致します。
- ・この保証は弊社製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用される場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

2. 取扱い、使用上の注意



・アクチュエータは分解しないでください。



・当社樹脂製配管材料に陽圧の気体をご使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆する等周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。尚、ご不明な点はお手数ですが弊社窓口へお問い合わせください。配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合、水圧にて確認してください。止むを得ず気体にて試験を行う場合、最寄りの営業所へ事前にご相談ください。



- ・バルブに乗ったり重量物を載せたりしないでください。(破損する恐れがあります)
- ・火気・高温な物体に接近させないでください。(変形・破損・火災の恐れがあります)
- ・水没する可能性のある場所では、使用しないでください。
- ・バルブは据え付ける場所の雰囲気にご注意ください。特に潮風、腐食性ガス、化学薬液、海水、蒸気等にさらされる所は避けてください。
- ・バルブに大きな振動を加えないでください。(故障・破損する恐れがあります)
- ・使用温度及び使用圧力は許容範囲内でご使用ください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です。許容範囲外で使用されますとバルブが破損する恐れがあります)
- ・保守点検が出来るスペースは十分確保してください。
- ・適切な材質を選定してご使用ください。(薬液の種類によって部品が侵され破損する恐れがあります。詳細については最寄の営業所へ事前にご相談ください)
- ・結晶性物質を含んだ流体では再結晶しない条件でご使用ください。
(バルブが正常に作動しなくなります)
- ・常時、水・粉じんなどが飛び散る場所及び直射日光のあたる場所は避けるか、又は全体を覆うカバー等を設けてください。(バルブが正常に作動しなくなります)
- ・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管、休転時または使用中の温度変化や経時変化により漏れが発生する場合があります)
- ・バルブ設置時は適切なバルブサポートを施してください。
(バルブ本体及び配管に無理な力が加わり破損等を引き起こす恐れがあります)
- ・必ず表示された製品仕様内でご使用ください。
- ・屋外や雰囲気の悪い環境で使用される場合は、保護用のポリ袋にてバルブ全体を覆うことをお勧めします。(サビ等により作動不良を引き起こす場合があります)

3. 運搬・開梱・保管の注意



警告

・バルブの吊り下げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。



注意

・投げ出し・落下・打撃等による衝撃を与えないでください。

(損傷や破損の恐れがあります)

・鋭利な物体(ナイフ・手かぎなど)で引っかき・突き刺しなどをしないでください。

・ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。

・コータール・クレオソート(木材用防腐剤)・白あり駆除剤・殺虫剤・塗料などに接触させないでください。(膨潤により破損する恐れがあります)

・バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。



・配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避け、屋内(室温)で保管してください。又、高温になる場所での保管も避けてください。(ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管・取扱には十分ご注意ください)

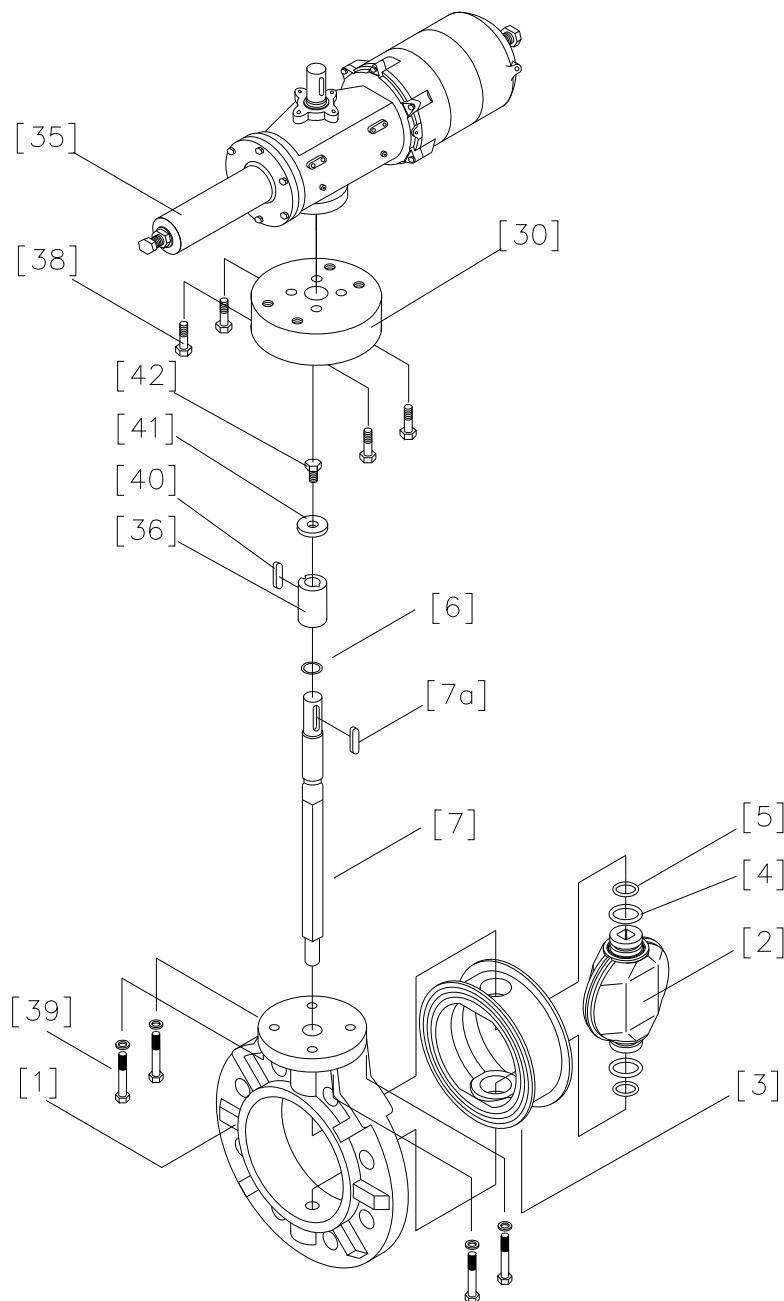
・開梱後、製品に異常がないか、また仕様と合致しているかご確認ください。

4. 各部品の名称

バタフライバルブ 75, 75D 型

呼び径: 450~600mm (本体材質: PP, PVDF, PDCPD*)

*本体材質 PDCPD(75D 型)は若干構造が異なります。

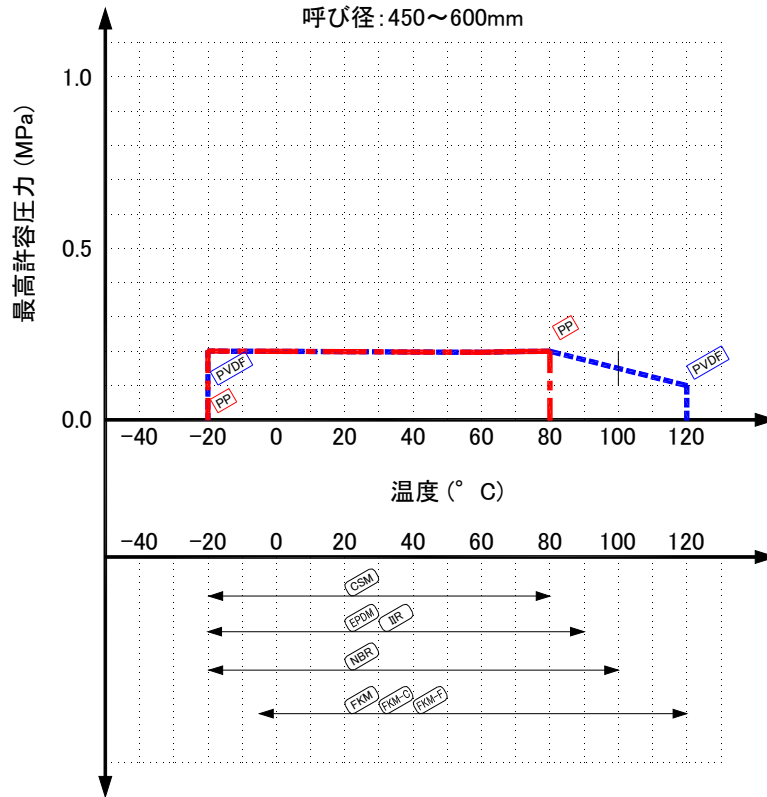


部番	部品名称	部番	部品名称	部番	部品名称
[1]	ボディ	[7]	ステム	[39]	ボルト(K)
[2]	ディスク	[7a]	キー(A)	[40]	キー(B)
[3]	シート	[30]	取付台	[41]	ワッシャー(B)
[4]	Oリング(A)	[35]	アクチュエータ	[42]	ボルト(F)
[5]	Oリング(B)	[36]	ステムブッシュ		
[6]	Oリング(C)	[38]	ボルト(E)		

5. 使用温度と圧力の関係

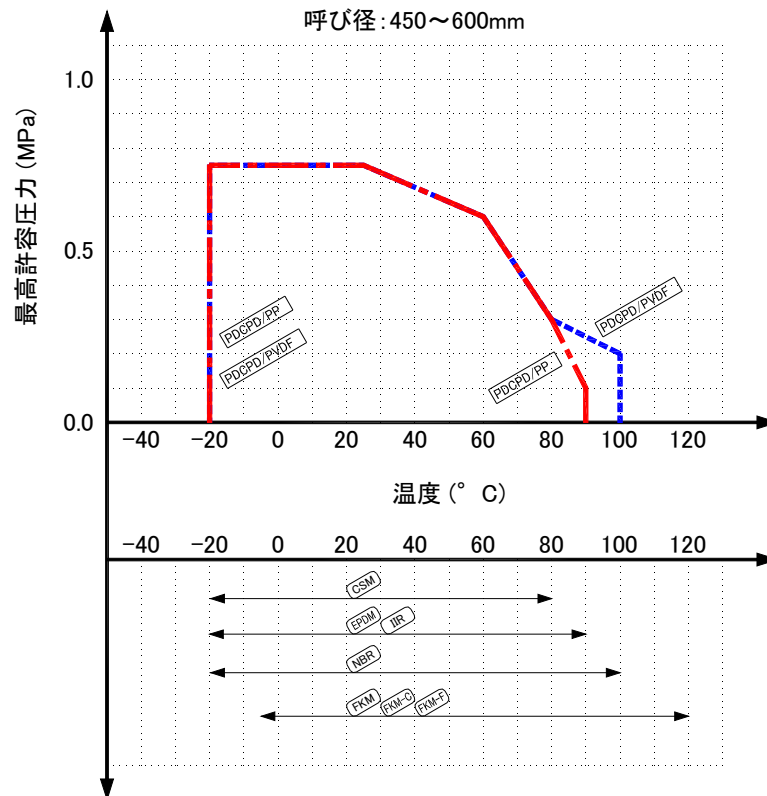
バタフライバルブ75型

呼び径: 450~600mm



バタフライバルブ75D型

呼び径: 450~600mm



6. アクチュエータ仕様

仕様一覧表

作動	呼び径 (mm)	アクチュエータ型式	角度調節範囲	操作圧力 MPa {kgf/cm ² }	空気消費 N l/開閉 (0.4MPa)	空気供給口径
復動	450~600	TW-250D	±5°	0.4 {4.1}	99	Rc 3/8

7. 電磁弁仕様 (オプション)

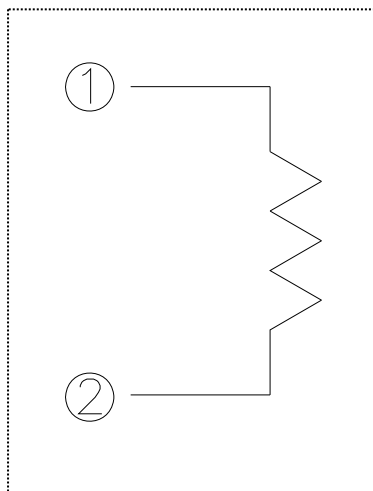
作動	呼び径 (mm)	型式記号	配管口径	有効断面積	消費電力	付加機能
復動	450~600	453S403C-W□	Rc 3/8	40mm ² 以上	AC ; 6VA DC ; 5W	○絞り弁付サイレンサ取付 (スピードコントローラとして使用)

453S403C-W□

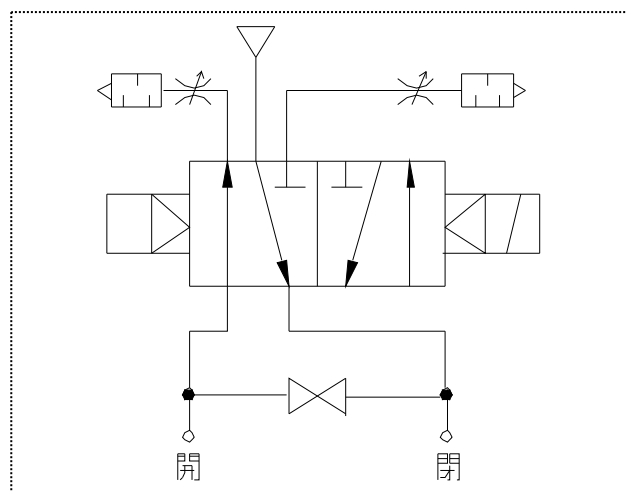
定格電圧	記入文字
AC100V 50/60Hz	1
AC110V 50/60Hz	(2)
AC200V 50/60Hz	3
AC220V 50/60Hz	(4)
DC24V	5
DC48V	(6)
DC100V	(7)
DC125V	(9)

※ ()つき記入文字は特殊品です。

結線図



JIS 記号



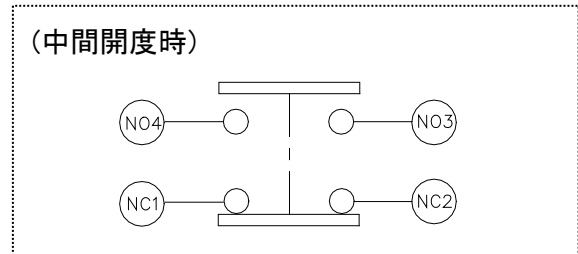
8. リミットスイッチ仕様 (オプション)

作 動	呼び径(mm)	型式記号	保護等級	リミットスイッチ機種
復 動	450~600	1LS1-J	IP67	-

リミットスイッチ定格 (呼び径 450mm~600mm)

定格電圧(V)	抵抗負荷(A)	誘導負荷(A)
AC125	10	6
AC250	10	6
DC125	0.8	0.2
DC250	0.4	0.1

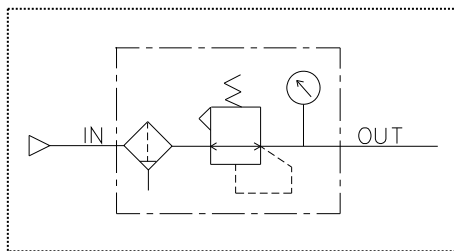
内部回路図



9. フィルタ付減圧弁 (オプション)

作 動	呼び径(mm)	型式記号	配管口径	エレメントろ過度
復 動	450~600	ARU3A-03-10A	Rc 3/8	40 μm

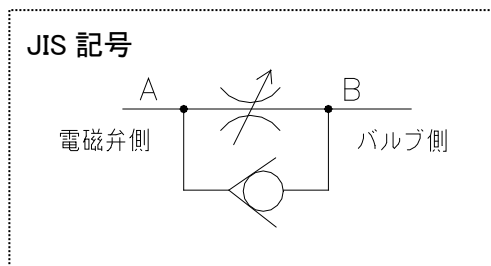
JIS 記号



10. スピードコントローラ仕様 (オプション)

作 動	呼び径 (mm)	型式記号	配管口径	有効断面積 (mm ²)		ニードル回転数
				自由流れ	制御流れ	
復 動	450~600	SC6-04-10A	Rc 3/8	38	32	20 回転

JIS 記号



11. 取付方法



・バルブの吊り下げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。



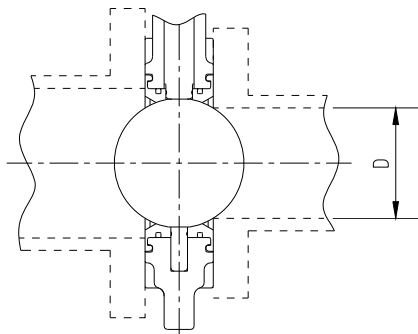
・使用する機械工具及び電動工具は、始業前に必ず安全点検を行ってください。
 ・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
 (ケガをする恐れがあります)



・Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎにご注意ください。(破損します)
 ・取付けの際は配管及びバルブ等に引張り、圧縮、曲げ、衝撃等の無理な応力が加わらないように設置してください。
 ・接続フランジは全面座のものを使用してください。
 ・相互のフランジ規格に違いがないように確認してください。
 ・配管取付の際は、全閉状態で取り付けないでください。(ディスクがシートへ噛み込み、操作トルクが重くなり、開閉操作ができなくなる恐れがあります)
 ・ガスケットは不要です。(バルブのシート[3]がガスケットの役割をします)
 ・接続部(フランジ・パイプ)の内径が小さな場合には、バルブディスクと接続部内径の面取りを行ってください。

○

接続部の内径は下記数値以上にしてください。



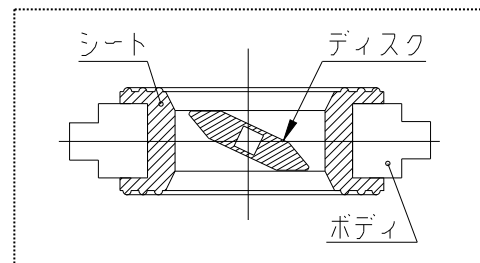
呼び径 (mm)	内径 D (mm)
450	422
500	472
600	572

準備するもの

- トルクレンチ
- 通しボルト・ナット・ワッシャー(9 頁の寸法参照)
- TA 型用レバーハンドル(別売品)またはスパナ

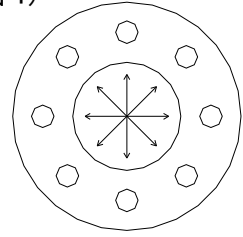
手順

- 1) バルブを半開の状態にします。
 ※ディスク[2]がシート面間よりはみ出さないようにしてください。
 (ディスク[2]が破損する恐れがあります。)
- 2) バルブを連結フランジ間にセットします。
- 3) 連結用の通しボルト・ナット・ワッシャーで手による仮のセットをします。
 (接続規格が JIS 10K の 450~600mm の場合は、ねじ込みボルトも使用します。)
- 4) 徐々に規定トルク値まで対角線上(図 1 参照)にトルクレンチで締め付けます。





・接続フランジのボルト・ナットは対角線上に規定トルクで締め付けてください。(漏れや破損する恐れがあります) (図 1)



規定トルク値		単位: N・m [kgf・cm]	
呼び径	450mm	500, 600mm	
トルク値	80.0 [816]	100.0 [1020]	

通しボルト(ボルト A)及びねじ込みボルト(ボルト B)寸法

本体材質: PP, PVDF, PDCPD

▼JIS10K

呼び径		ボルト A			ボルト B		数量		
(mm)	(inch)	D	L (mm)	S (mm)	D1	L1 (mm)	ボルト A	ボルト B	ナット・ワッシャー
450	(18")	M24	310	65	M24	120	16	8	40
500	(20")		320						
600	(24")	M30	350	75	M30	140	20		48

注記 1.上記数値は JIS B 2220「鋼製管フランジ」呼び圧力 10K 並型を使用した場合のボルト寸法です。

注記 2.ナット・ワッシャー数量はボルト A の場合で 2 組(ボルト 1 本/ナット 2 ケ、ワッシャー 2 ケ)、ボルト B の場合で 1 組(ボルト 1 本/ナット・ワッシャー 1 ケ)の数量です。

▼上水

呼び径		ボルト A			ボルト B		数量		
(mm)	(inch)	D	L (mm)	S (mm)	D1	L1 (mm)	ボルト A	ボルト B	ナット・ワッシャー
450	(18")	M24	310	60	-	-	12	-	24
500	(20")		320						
600	(24")	M30	340				16		32

注記 1.上記数値は JIS G 5527「ダクタイル鋳鉄異形管」呼び圧力 7.5K を使用した場合のボルト寸法です。

注記 2.ナット・ワッシャー数量はボルト A の場合で 2 組(ボルト 1 本/ナット 2 ケ、ワッシャー 2 ケ)の数量です。

本体材質: PP, PVDF

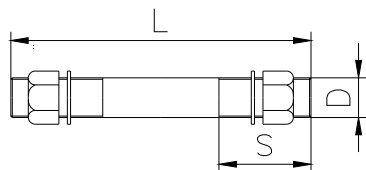
▼JIS5K

呼び径		ボルト A			ボルト B		数量		
(mm)	(inch)	D	L (mm)	S (mm)	D1	L1 (mm)	ボルト A	ボルト B	ナット・ワッシャー
450	(18")	M22	270	55	-	-	16	-	32
500	(20")		280						
600	(24")	M24	320	60			20		40

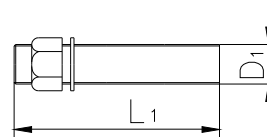
注記 1.上記数値は JIS B 2220「鋼製管フランジ」呼び圧力 5K を使用した場合のボルト寸法です。

注記 2.ナット・ワッシャー数量はボルト A の場合で 2 組(ボルト 1 本/ナット 2 ケ、ワッシャー 2 ケ)の数量です。

ボルト A



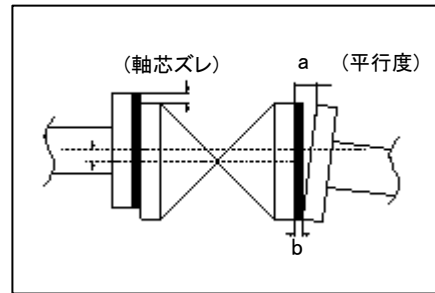
ボルト B





・フランジ面の平行度及び軸芯ズレの寸法は下記の表の数値以下にしてください。
(配管に応力が加わり破損する恐れがあります)

呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a-b)
450~600	1.5mm	1.0mm



12. サポート設置方法



・ポンプ周りの配管でバルブに大きな振動を起こさせないでください。
(故障・破損する恐れがあります)



・バルブサポートを設置してください。
(バルブ本体及び配管に無理な力が加わり破損等を引き起こす恐れがあります)

準備するもの

● スパナ

● Uバンド(ボルト付)

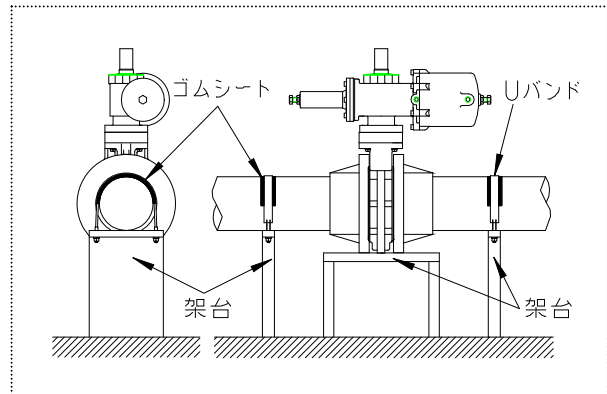
● ゴムシート

水平配管

バルブの下に架台を設置します。

パイプの上部にゴムシートを敷き、U バンドで固定します。

(サポート設置例)

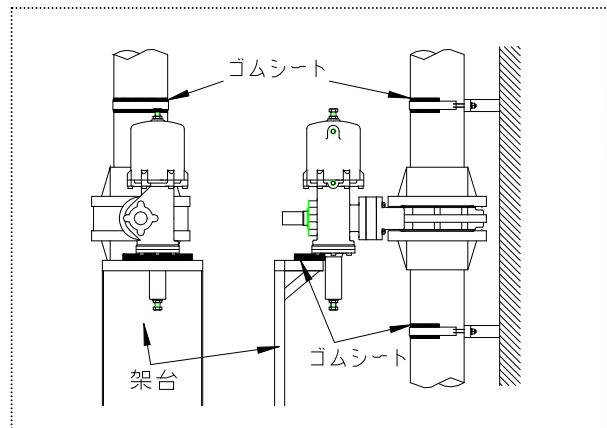


垂直配管

アクチュエータ部にゴムシートを敷き、架台を設置します。

パイプにゴムシートを敷き、U バンドで固定します。

(サポート設置例)



13. エア配管方法

オプションなしまたはスピードコントローラ付の場合



注意



- ・エア配管を接続する直前まで保護用プラグは取り外さないでください。
- ・エア配管用継手は締めすぎないでください。(破損する恐れがあります)



- ・供給空気は除湿、除塵された清浄なものをご使用ください。ただし露点が -40°C 以下の高乾燥エアをご使用の場合は別途ご相談ください。
- ・周囲温度が 5°C 以下でご使用の場合は、操作エアの水分を除去し、凍結を防止してください。
- ・エア配管に鋼管を使用する場合には、管内面を防錆処理したものを使用してください。
- ・エア配管を接続する前にエア配管内部を十分にフラッシングしてください。
- ・エア配管を接続するときは、シール材等の異物が配管内に入り込まないようにご注意ください。
- ・配管用継手のネジ部のバリは必ず除去してください。
(カジリを生じたりエア漏れを生じたりします)

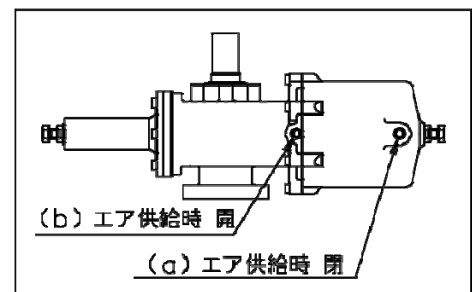
準備するもの

- エア配管用銅管またはチューブ管
- スパナ
- 銅管用継手またはチューブ管用継手
- シールテープ (シールテープ以外は漏れる恐れがあります)

手順

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端約 3mm 残して巻きつけます。
- 2) アクチュエータの配管口に継手を手で締めつけます。
- 3) 継手をスパナで1回転ねじ込みます。
※締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)
- 4) エア配管用銅管またはチューブ管を取り付けます。
※絵はスピードコントローラなしですが配管要領は同じです。

呼び径 450~600mm (復動)



電磁弁及びフィルタ付減圧弁付の場合



注意



- ・エア配管を接続する直前まで、保護用プラグは取り外さないでください。
- ・エア配管用継手は締めすぎないでください。
- ・エア配管に銅管を使用する場合には、管内面を防錆処理したものを使用してください。
- ・エア配管を接続する前にはエア配管内部を充分フラッシングしてください。
- ・エア配管を接続するときは、シール材質の異物が配管内に入りこまないようご注意ください。
- ・配管用継手のネジ部のバリは必ず除去してください。
(ガジリを生じたりエア漏れを生じたりします)
- ・フィルタ減圧弁のドレンは定期的に排出してください。
- ・フィルタ減圧弁の二次側圧力は機器仕様に合った設定にしてください。
(作動不良や故障の原因になります)

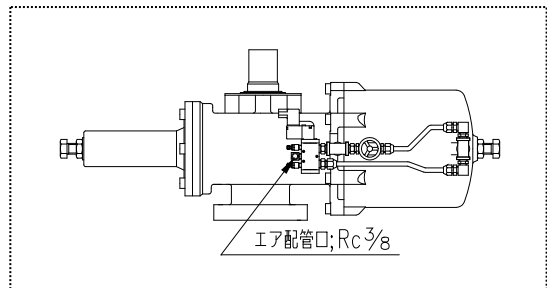
準備するもの

- エア配管用銅管またはチューブ管
- 銅管用継手またはチューブ管用継手
- シールテープ（シールテープ以外は漏れる恐れがあります）
- スパナ

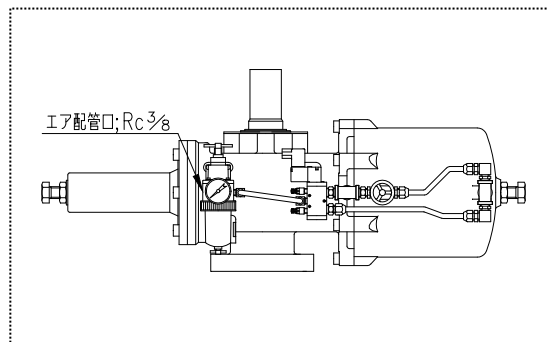
手順

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端約 3mm 残して巻きつけます。
- 2) エア配管口(図 1・図 2 参照)に継手を手で締めつけます。
- 3) 継手をスパナで 1 回転ねじ込みます。
※締め過ぎないでください。
(破損する恐れがあります)
- 4) エア配管用銅管またはチューブ管を取り付けます。

(図 1)電磁弁付



(図 2)電磁弁・フィルタ付減圧弁



14. リミットスイッチ結線方法



警告



・リミットスイッチへの結線・離線は通電状態では行わないでください。
(感電したり機械が突然始動したりします)



注意



・カバーを開放して放置または使用しないでください。
(水、塵埃などが浸入し動作不良になることがあります)



・電線は絶縁被覆付き圧着端子を用いて、カバー、ハウジングに接触しないように結線してください。
(カバーに圧着端子が接触するとカバーが締まらなくなったり地絡することがあります)
・リミットスイッチを 1mA~100mA, 5~30V で使用される場合は、最寄りの営業所へご相談ください。
・カバーは確実に取り付けてください。(雨水等が浸入し、故障の原因になります。)

準備するもの

- プラスドライバ
- 圧着端子工具

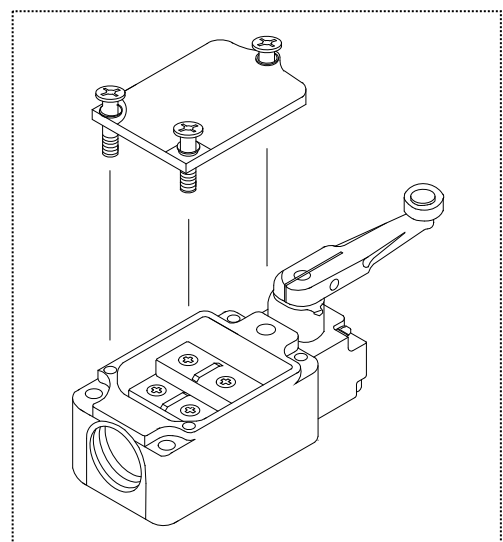
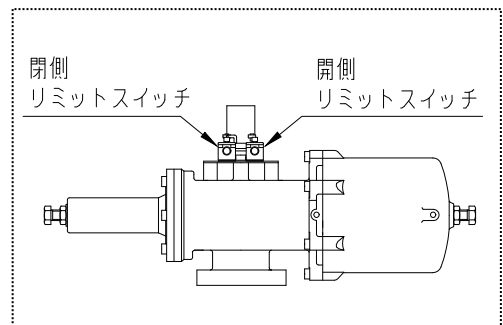
- コネクタ(G1/2)

- ワイヤーストリッパ

- 圧着端子

手順

- 1) リミットスイッチカバーを固定しているねじ(3ヶ所)をプラスドライバで緩めカバーを外します。
(ねじはカバーから抜け落ちない構造になっています)
- 2) 樹脂製保護キャップを引き抜き外します。
- 3) コネクタにケーブルを通します。
- 4) ワイヤーストリッパでケーブルの外皮をむきます。
- 5) 端子ねじにマイナスドライバで7頁の内部回路図に従って結線します。
※ねじはしっかりと締めてください。
(漏電や感電の恐れがあります)



15. 電磁弁結線方法



・電磁弁への結線・離線は通電状態で行わないでください。感電したり機械が突然始動したりします。



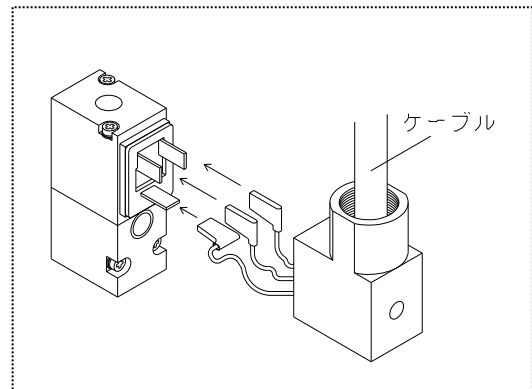
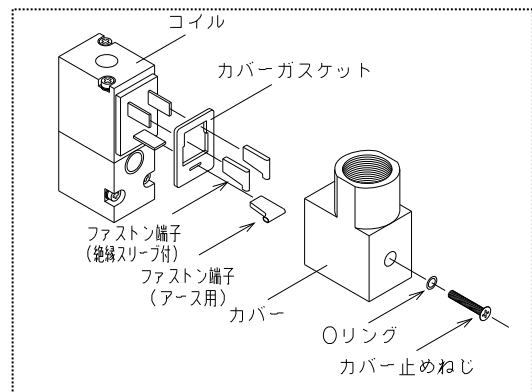
・電磁弁に表示してある電源電圧とこれから配線しようとしている電圧が合致していることを確認してください。

準備するもの

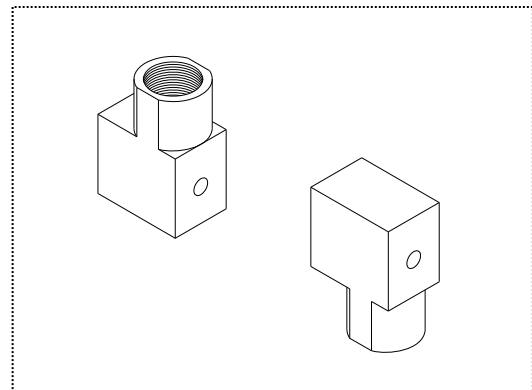
- プラスドライバ
- 端子圧着工具
- コネクタ (G1/2)
- ワイヤーストリッパ

手順

- 1) カバー止めねじをプラスドライバで緩めてカバーを取り外します。
※Oリングは紛失しないください。
(漏電や感電の恐れがあります。)
- 2) コイル側端子に差し込んでいるファストン端子と絶縁カバーを抜き取ります。
※アース用端子には絶縁スリーブを付属していません。
- 3) コネクタ、カバーの順にケーブルを通します。
- 4) ワイヤーストリッパでケーブルの外皮をむきます。
- 5) 絶縁カバーにリード線を通します。
- 6) 端子圧着工具でリード線にファストン端子をつけます。
- 7) コイル側端子にファストン端子を差し込み、絶縁カバーをかぶせます。
- 8) カバー止めねじをプラスドライバで締めてカバーを取り付けます。
[カバーは配線引出し口を上下どちらにしても取り付けられます(図 1)]
- 9) コネクタでケーブルを締めつけます。



(図 1)



16. 試運転方法

手動操作方法



警告



・手動操作中はエアを供給しないでください。(ケガをする恐れがあります)



注意



・全開・全閉位置からさらに無理にハンドル(別売品)を回転させないでください。(故障します)

準備するもの

- 南京錠のカギ

手順

*電磁弁付の場合、バイパスバルブのハンドルを左へ回転してください。(開閉操作ができません)

- 1) 南京錠をカギで開けて鎖を外します。
- 2) 開度指計を見ながら全開 ←→ 全閉を行います。

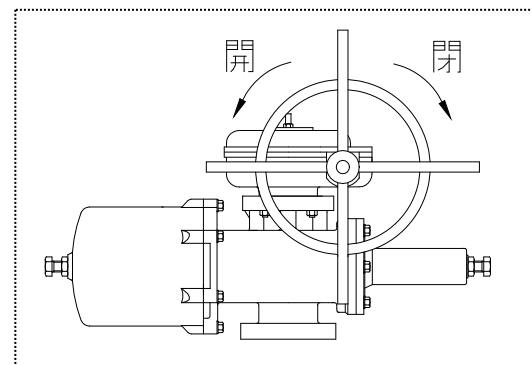
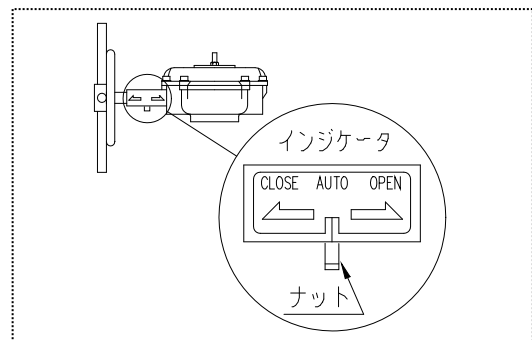
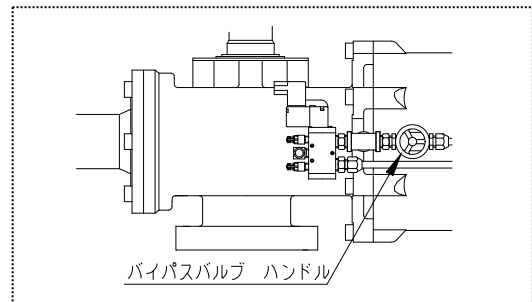
右回転(時計回り) ⇨ 閉方向

左回転(反時計回り) ⇨ 開方向

ハンドル回転数; 約 13 回転

※開から閉、または閉から開にするときに、約 13 回転の「空転」があります。

- 3) ハンドルを回して、インジケータの「AUTO」にナットを合わせます。
- 4) 鎖をハンドルとギアケースに通して南京錠でつなぎハンドルをロックします。
※電磁弁付の場合、バイパスバルブのつまみを右回転させてください。(エアが漏れます)



エアによる操作方法

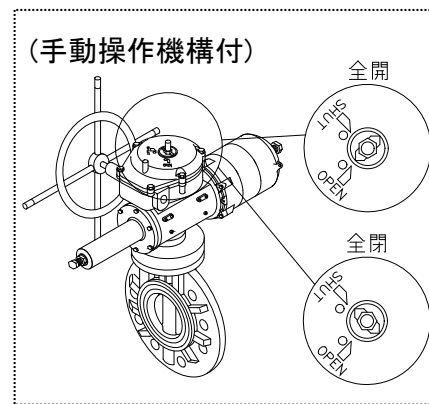
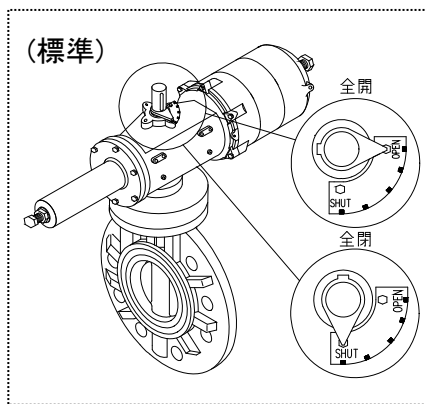


必ず表示された製品仕様内でご使用ください。(作動しない恐れがあります)

手順

- 1) エア配管口にエアを供給します。
- 2) エア供給側と表示位置が一致していることを確認します。
(各機種・仕様による表示の状態は下図を参照下さい)
※全閉時の指針の位置は、ディスク[2]の締め込みしろのため、図の位置に若干達しない場合があります。
- 3) エア供給を停止します。

TW 型

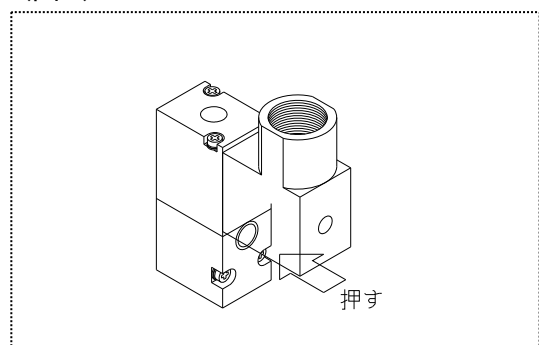


〈電磁弁付の場合〉

手順

- 1) 規定のエアが供給されている事を確認します。
電磁弁端子カバーの下の押しボタン(図 5)を指で押すことにより下表の動作になることを確認してください。
- 2) 電磁弁へ通電・非通電により下表の動作になることを確認してください。
- 3) 電磁弁の電源を切ります。

(図 5)



押しボタン	電源	復動
押す	通電	バルブ全開
押さない	非通電	バルブ全閉

開閉スピード調整方法



・電磁弁の調節ツマミは調整後、必ずロックしてください。
(ロックナットは無理な力で締めないでください)

○ 復動

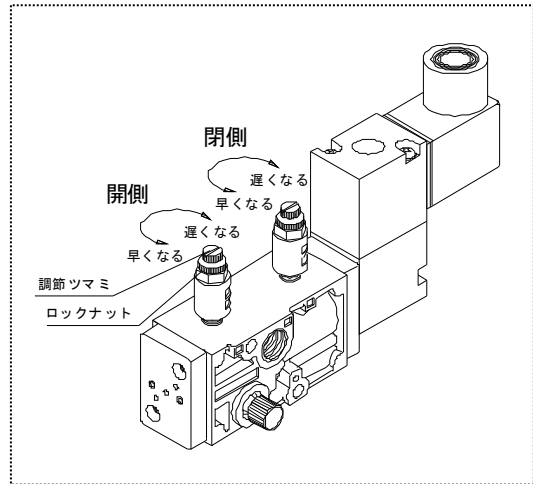
準備するもの

- スパナ

手順

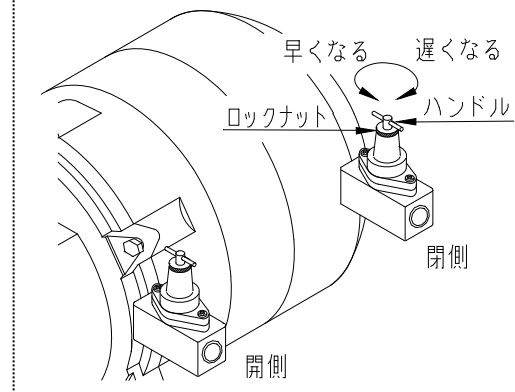
- 1) スピードコントローラの調整ツマミを指で保持したまま、ロックナットを左回転させ、調整ツマミの固定を解除します。
- 2) 調整ツマミを回らなくなるまで右回転させます。
※無理に回し過ぎないでください。
(破損する恐れがあります)
- 3) 電磁弁にエアを供給します。
- 4) 電磁弁に通電し、開側スピードコントローラの調整ツマミを少しずつ左回転させます。
- 5) 電磁弁側の通電を切り、閉側スピードコントローラの調整ツマミを少しずつ左回転させます。
- 6) 4)と 5)を繰り返して、希望する開閉スピードにあわせます。
- 7) 希望するスピードになったら調整ツマミを指で保持したままロックナットを右回転させ、調整ツマミを固定します。
※ロックナットは無理な力で締めないでください。
(破損する恐れがあります)

電磁弁付の場合



スピードコントローラ付の場合

(呼び径 450~600mm)



17. 部品交換のための分解方法



- ・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
(ケガをする恐れがあります)
- ・取付の際は配管及びバルブ等に引張り、圧縮、曲げ、衝撃等の無理な応力が加わらないように設置してください。
- ・バルブの取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いてください。又流体が抜けない場合は、流体の圧力をゼロにしてください。

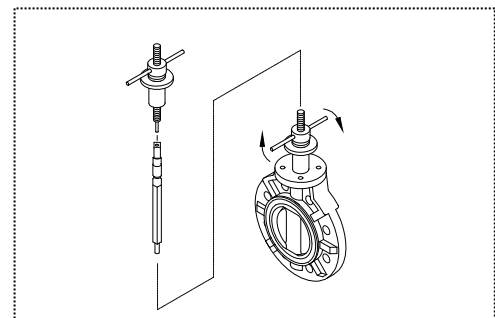
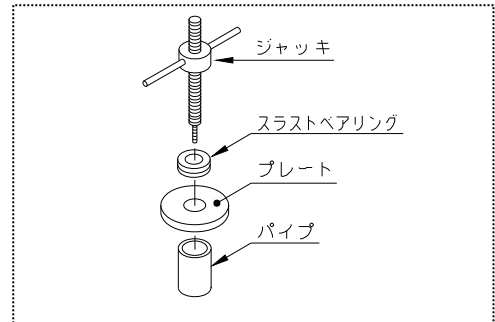
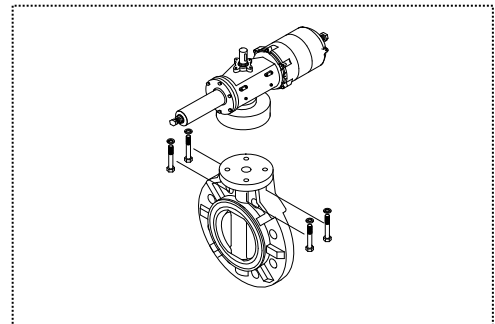
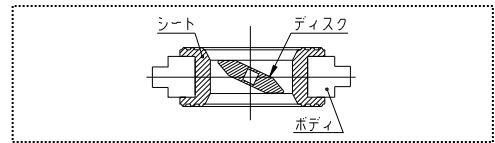
準備するもの

- ジャッキ
- パイプ
- プレート
- プライヤ
- スラストベアリング
- 六角レンチ
- 保護手袋
- 保護眼鏡

〈分解〉

手順

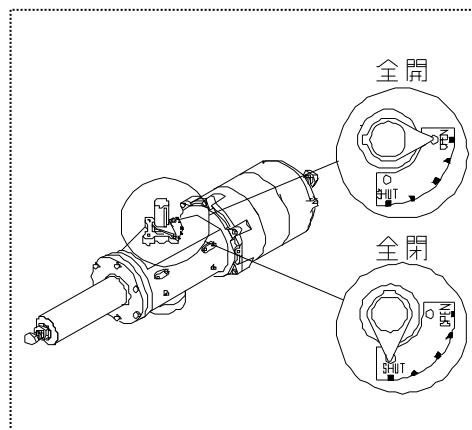
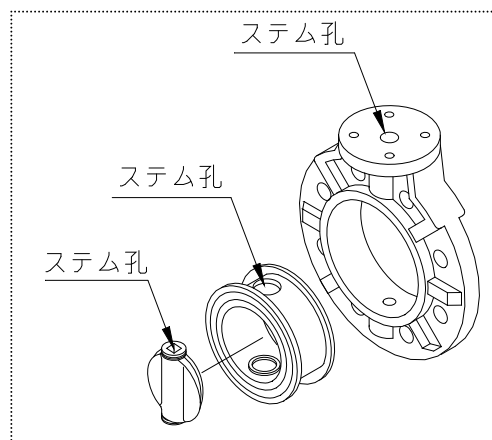
- 1) 配管内の流体を完全に抜きます。
- 2) エア操作または手動操作にてバルブを全閉の状態にします。(15 頁参照)
- 3) エアの元バルブを締め、バイパスバルブを開けてアクチュエータ内のエアを排気します。
- 4) エア配管を外します。
- 5) 手動用レバーハンドルでバルブを微開にします。
- 6) 連結ボルト・ナットを緩め、取り外します。
- 7) バルブを配管より取り外します。
- 8) ボルト(K)[39]を緩め、ボディ[1]とアクチュエータ[35]を取り外します。
※取付台[30]はボルト(E)[38]でアクチュエータ[35]に固定されています。
- 9) ジャッキ、スラストベアリング、プレート、パイプをバルブに取りつけて、ジャッキ軸をステム[7]にねじ込みます。ジャッキのハンドルを回してステム[7]を抜きます。
- 10) ジャッキからステム[7]を取り外します。
- 11) Oリング(C)[6]を取り外します。
- 12) ディスク[2]を全開の状態にします。
- 13) シート[3]の両端を引き出し、シート[3]と、ディスク[2]を揺らしながら徐々に外します。
- 14) シート[3]からディスク[2]を取り出します。
- 15) Oリング(A)[4]とOリング(B)[5]を取り出します。



〈組立〉

手順

- 1) 組み立てる前に、Oリング(A)[4]、Oリング(B)[5]、Oリング(C)[6]にシリコングリスを塗布します。
- 2) 部品の組立作業は、18頁の分解、15)から逆の手順で行います。
ただし、ディスク[2]をセットしたシート[3]をボディ[1]に挿入するときは、ディスク[2]を半開にし、ボディ[1]とシート[3]のステム孔位置を合致させ、シート[3]の外側リムをボディ[1]の内側に入れ、手で押さえながら入れます。
- 3) 組立後、手動操作(15頁参照)を行い、ディスク[2]がシート[3]に十分フィットするか確認してください。
- 4) ディスク[2]と開度計の開度が合致しているか確認します。
- 5) エアによる操作(15頁参照)で作動を確認します。
※ストッパーがずれている場合には、「18.ストッパー調整方法」に従って調整してください。



18. ストッパー調整方法



・調整中にエアを供給しないでください。(ケガをする恐れがあります)

警告



・ストッパーは調整後、必ずロックナットでロックしてください。
(無理な力で締め付けないでください)

準備するもの

- スパナ

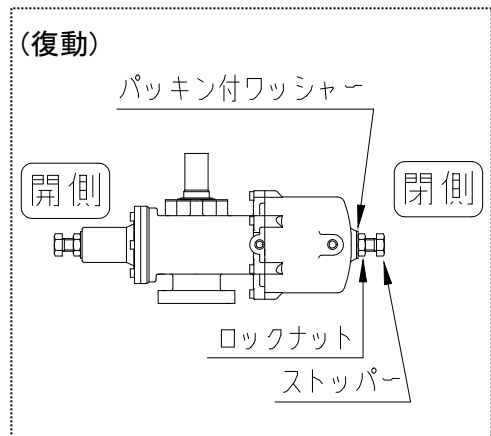
手順

- 1) エアの前バルブを閉め、バイパスバルブを開けて、アクチュエータ内のエアを排気します。(15 頁参照)
- 2) 調整する側(全開または全閉)のストッパーをスパナで固定し、ロックナットをスパナで緩めます。
※パッキン付ワッシャーを傷つけないでください。
(エア漏れする恐れがあります)
- 3) ストッパーをスパナで調整したい方向へ回転させます。

調整する方向	右回転 (時計回り)	左回転 (反時計回り)
開側	開度が小さくなる	開度が大きくなる
閉側	開度が大きくなる	開度が小さくなる

- 4) ストッパーをスパナで調整したい方向へ回転させます。
※締め過ぎないでください。(パッキン付ワッシャーが傷ついて、エア漏れする可能性があります)
- 5) バイパスバルブを閉じて、エアの前バルブを開け、エアによる操作(15 頁参照)で調整したい開度になっているか確認します。再度調整する場合には 1) 2) 3) 4) を繰り返します。

呼び径 450~600mm



19. 点検項目



・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管・休転時または使用中の温度変化や経時変化により漏れが発生する場合があります。)

点検箇所	点検項目
アクチュエータ	①外観上のサビ、塗装のハゲ、腐食の有無 ②各ねじ部の締め具合(緩んでいないか) ③開閉操作音の異常の有無 ④スムーズな開閉操作 ・電磁弁付きの場合・・・バルブの作動頻度が少ない場合でも、30日に1回はスムーズな開閉操作の有無を確認してください。 このアクチュエータは給油不要です。
取付台	①ボルト・ナットの締め具合(緩んでいないか)
バルブ	①外観上のキズ・ワレ・変形・変色の有無 ②バルブからの外部漏れの有無 ③全閉の漏れの有無

20. 不具合の原因と処置方法

不具合現象	予想される原因	対策・処置
手動操作レバー ハンドル(スパナ)が回らない(回せない)	既に全開(または全閉)になっている	手動ハンドルを逆方向に回転させてください (15 頁参照)
	アクチュエータにエアが供給されたままになっている	エアの元バルブを締め、バイパスバルブを開いてください
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外し、異物を取り除いてください (8 頁参照)
	配管応力によりトルクが増加している	バルブを配管から取り外し、配管応力を取り除いてください (8 頁参照)
	バルブが流体の影響(温度・成分・圧力)によりトルクが増加している	使用条件をもう一度確認してください (5 頁参照)
エア操作で開閉しない	電磁弁の電源が切れている	電源を入れてください
	電磁弁への結線が外れている	結線状態をもう一度確認してください (14 頁参照)
	エアが供給されていない	エアを供給してください
	電磁弁の電源電圧が異なっている	テスターで電圧をチェックし、正規の電圧にしてください
	電磁弁の電圧が低い	
バイパスバルブが開いている	バイパスバルブのツマミを右回転させて閉じてください (15 頁参照)	

不具合現象	予想される原因	対策・処置
エア操作で開閉しない	スピードコントローラの調整ツマミが右回転いっぱいになっている	スピードコントローラの調整ツマミを左回転させてください (17 頁参照)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外し、異物を取り除いてください。 (8 頁参照)
	配管応力によりバルブのトルクが増加している	バルブを配管から取り外し、配管応力を取り除いてください (8 頁参照)
	流体の影響(温度・成分・圧力)によりトルクが増加している	使用条件を確認してください (5 頁参照)
全閉にしても流体が漏れる	シートが摩耗している	シートを交換してください (18 頁参照)
	ディスク、シート又はボディにキズがある	該当する部品を交換してください (18 頁参照)
	バルブに異物が噛み込んでいる	数回開閉させて異物を流し出してください (15 頁参照)
	連結ボルトの片締め、締めすぎまたは緩んでいる	再度締め直してください (8 頁参照)
バルブから流体が漏れる	Oリングに傷または摩耗がみられる	Oリングを交換してください (18 頁参照)
	Oリングが溝からはみ出している	
	Oリングの褶動面(または固定面)に傷または摩耗がみられる	該当する部品を交換してください (18 頁参照)
アクチュエータは作動しているが、バルブが開閉していない	ステムまたは継手が破損している	ステムまたは継手を交換してください (18 頁参照)
	ステムとディスクの嵌合面が破損している	該当する部品を交換してください (18 頁参照)

21. 残材・廃材の処理方法



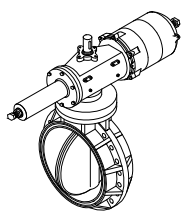
警告 ・廃棄される場合は、各自治体の指針に従い、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。
(燃やすと有毒ガスが発生します)

バタフライバルブ 75, 75D 型 エア式 TW 型

450~600mm

[自動バルブ]

旭有機材株式会社



旭有機材ホームページ

<http://www.asahi-yukizai.co.jp/>

本書内容につきましては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

2016.4